

令和7年度第1回行財政評価委員会・会議録

日 時 令和7年10月14日（火）14時00分～16時30分
場 所 市役所8階 802会議室
出席者 河内長野市行財政評価委員会 5名（欠席：嶋田委員）
事務局 西野市長、早川総務経営局長、藤川総務資源部長、吉川総務課長
横山主幹兼G長、近藤
事業担当課 秘書企画課、シティプロモーション課、まちづくり推進課
自然資本活用課、まちデザイン課、産業観光課、ふるさと納税課
傍聴者 1名

案件1. 令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業の評価について

事業：産官学民連携によるオール河内長野の地域活性化事業

<担当課から事業内容・評価の概要を説明>

<主な質問、意見>

評価は「妥当」と一致。万博や70周年を契機に事業創出・実施ができ、市民公益活動と補完しながら新たな市民の積極的参加を生んでいる点を評価する一方、継続性や実効性に課題があるとの指摘があった。

また、コミュニティ参加団体数を目標にすると活動のない団体が出てくることを懸念があり、市役所主導の連携会議を市民主導へと変え、市民参加の質を高める、具体的な作戦が必要であるとの意見や、デジタルプラットフォームの利点とマンネリ化のリスクも挙げられた。イベント中心にならない「参画と協同」の突破口を開き、得た人材とノウハウをストックして他の事業者や他課にも展開する必要性が強調された。総じて成果を認めつつ、持続可能性・具体性・周知・ノウハウや人材の継承が今後の焦点とされた。

<委員会の評価>（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

事業：デジタル技術を活用した多様なコミュニティ創出による地域活性化事業

<担当課から事業内容・評価の概要を説明>

<主な質問、意見>

総じて「妥当」との評価。特にインナーブランディングで職員が総出で取り組んでいる点が、従来のシティプロモーションと異なる点として評価された。数値目標は達成できていない項目もあり、要素事業との関連で目標設定が難しかった可能性が指摘された。ブランドブックは職員向けに作られ公開しているが、より広く共有できればとの意見もあった。オンラインで意見を集める方式はコロナ以

降受け入れられているが、市内導入はまだ限定的で、裾野拡大のため高齢者向けマニュアルや導入ノウハウの整備が必要とされた。広報・地域還元の工夫や、南花台地区の成功事例を他のまちへ展開することも求められている。自治体 DX については総務課に担当部署を統合して推進（デジタルと行財政改革を合体）、生成 AI 活用などの取組を進めているが、全体戦略の中での位置づけや他の具体施策（窓口改革、コンビニ交付等）を見える化してほしいとの要望があった。

<委員会の評価>（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）
「妥当」

案件 2. 令和 6 年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業の評価について

事業：公共交通推進事業

<事業担当課から事業内容・評価の概要を説明>

<主な質問、意見>

「妥当」と評価。民間の知見導入を概ね評価する一方で、公共交通の地域性や減便リスク、住民満足度向上の方策については、行政の視点が大事であるという意見、また人材派遣型事業に見合った評価指標の整備が課題として挙げられた。

<委員会の評価>（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）
「妥当」

事業：サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業

<事業担当課から事業内容・評価の概要を説明>

<主な質問、意見>

現行の KPI がスタジアム等「ハード」な成果に偏っており、ワークショップやサッカーチームとの交流といった「ソフト」な取組が数値目標に反映されていないため不利になっているとの指摘が出た。スタジアム完成に依存する指標だと達成が困難になるため、寄附や評価につながるソフト面の努力も指標化すべきという提案があった。また、最終アウトプットに直結する KPI だけでなく、進捗率や進捗を阻む要因などの中間指標や補助指標、実施状況のストーリー（説明）を参考資料等に付けて評価に反映すべきという意見が強調された。材料費高騰や入札の難航など外部要因を踏まえ、進捗が遅れている中での事業実施には一定の評価がなされた。

総じて評価は「妥当」との結論であった。

<委員会の評価>（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）
「妥当」

事業：林道整備事業

＜事業担当課から事業内容・評価の概要を説明＞

＜主な質問、意見＞

全体として妥当との評価。河内長野市は山地が多く林業が重要である点で一致したが、「林業従事者数」を指標とすることの適切性に疑問があるとの意見があった。最終アウトカムの設定が現場と乖離している可能性が指摘され、充当率や寄附者数などより具体的で説明しやすい指標を用いること、行政内部で寄附を活用して事業を推進する意識醸成や仕組みづくりなどの提案があった。

＜委員会の評価＞（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

事業：産業振興事業

＜事業担当課から事業内容・評価の概要を説明＞

＜主な質問、意見＞

評価は妥当とされ、派遣型で専門的知見を活用できた点は評価されたが、KPI では事業内容や成果の中身が読み取れないとの指摘があった。事業内容については、地域住民の理解を得ながら進める必要がある点も強調され、知見の蓄積や人材派遣制度の効果を示す補助指標を設定し、最終アウトカムだけでなく中間評価ができるようにすることが求められた。

＜委員会の評価＞（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

事業：ふるさと納税を通じた市の活性化推進事業

＜事業担当課から事業内容・評価の概要を説明＞

＜主な質問、意見＞

全会一致で妥当との評価。その他、質疑・意見等なし。

＜委員会の評価＞（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

案件３．その他

事務局：評価いただいた事業は、委員のご意見をもとに、今後の施策の展開、事業の改善に努める。

また、評価結果は、事務局で取りまとめて、後日、市ホームページで公表を予定している。

その際、評価結果の取りまとめ、公表方法は事務局に一任いただいてよろしいか。

委 員 長：事務局に一任する。